

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100090		
法人名	有限会社ヴァントーズ		
事業所名	グループホーム ヴィエント		
所在地	矢板市片岡1174-2		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分の合ったペースで自分らしく家庭的な生活を安心して送っていただけるように、温かい心で寄り添いながら支援に努めさせていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小規模多機能型居宅介護施設が併設され、共有空間としてウッドデッキが付いた中庭があり、ひなたぼっこやオープンカフェなど多彩に利用されている。「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」生活の支援をするのが事業所の理念で、職員は入居者一人ひとりのペースに合わせ、その人なりにできることを共に行い、暮らしが楽しくなるよう支援している。運営推進会議等で親しくなった地域の人が事業所の夏祭りを手伝ってくれ、夏祭りへの参加者も年々増えている。また、野菜を届けてくれることもあり、入居者が散歩の途中で立ち寄って庭木を見たりお茶を飲んだり、地域との交流が盛んで年々発展している。夏祭りには学生の参加があり、歌や踊り、将棋、工作など多彩なボランティアの訪問も多い。職員は、事業所がオープンしたころからほとんど変わっておらず、職員間で問題点を提起しやすい雰囲気があり、介護サービスや設備の改善等につながっている。また、入居者が行きたい所へは可能な限り連れて行くなど明るく前向きで積極的な職員が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のゆっくり、一緒に、楽しみながらを共有してご自分のペースで安心した生活を送れるよう寄り添いながら支援に努めるように心掛けている。	事業所がオープンしたところから職員はほとんど変わっておらず、理念がしっかり浸透している様子うかがえる。食事の準備などでは、できなくてもそばにいてもらうなど、常に寄り添い、入居者のペースに合わせ、職員自身も楽しみながら日々の介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近所を散歩したり夏祭りに参加して頂いて楽しんで頂いている。地域のボランティアの方を積極的に受け入れている。	散歩の際に、畑や植木を見せてもらったりするなど地域住民との親しい付き合いがある。散歩や運営推進会議等で親しくなった地域の人が、夏祭りの手伝いをしたり野菜をくれるといった関係に発展している。学生も含めた多彩なボランティアの自主的な訪問も多い。毎月開催されるオープンカフェや、夏祭りへの参加者は年々増え、盛り上がりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方に来て頂いて交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様のご家族、近隣の方々や行政の方にも来て頂いて意見を聞いてサービスの向上に繋げている。	運営推進会議には、オープン当時の区長や現区長、民生委員、入居者の家族などが参加している。事業所の運営状況や介護制度についての質問、地域の高齢者介護についての相談などが話し合われ、地域の事業所に寄せる信頼の厚さが感じられる内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に出席して頂いたり困難事例の相談にのって頂いたりして協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者とは、困難事例の相談など、常に連絡を取り合い連携に努めている。3か月に一度行われる市内のグループホーム連絡会では、テーマを決めて情報交換を行っているが、市も会議室を提供したり会議に参加するなど協力的で、行政への不満や要望なども言いやすく、市と事業者双方にとって大切な意見交換の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒のリスクはあるが見守り強化に取り組んで骨折しないように努力している。	加齢に伴い、ふらつくなど体勢が不安定となったが、椅子やキャビネット、ベッド柵に上る人がいるが、拘束はせず見守りを強化することで対応している。玄関にも施錠はせず、外に出たがる人にはしっかり話を聞いたり、一緒に散歩するようにしている。ベッドでは危険と思われる場合は、床に布団を敷いて寝てもらおうなどの対応もしている。毎月行われる学習会で、拘束について学ぶ機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加して虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行っている。必要において関係者と話し合い情報を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をするように努めています。その都度尋ねて頂き説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のために来所された時や電話で意見を聞くようにしている。	家族からは、面会時や所要のため電話した折などに意見や要望がないか聞き出すようにしている。入居者の体調管理や食べ物に関する要望などが主に出されている。入居者からは食べ物に関する要望が多いが、家族に会いたいという希望が出たときは家族に連絡し、面会を促すなどの対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で施設長にも同席して頂いて話し合いをしている。	月1回の定例会議は夕方に行われており、夜勤者以外のほとんどの職員が参加している。欠席者は質問事項等を書いて提出し、会議内容は後日回覧している。行事についての話し合いや入居者一人ひとりの状況説明、職員からの要望などが話し合われている。職員の提案でお風呂の手すりやウッドデッキなどが設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月定例会議を行い職員の要望に耳を傾けてくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネの研修その他の研修にも参加を促してくれて働きながらのトレーニングはできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所間の研修会や交流会に参加してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安をできるだけ少なくできるようにご本人様にお会いして安心して頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ詳しく説明して納得して頂けるよう努力に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを伺ったりご本人様とお話をしながら必要な支援を見極めるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と同じ目線で接していけるように努力しています。一緒に洗濯物を干したり畳んだりしながら共に生活していると思えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時には早急に家族様に連絡をして来所していただいたり、面会に来て頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来て頂けるような関係作りをしている。	面会者はほとんど家族に限られ、友人や知人の訪問はないが、毎日の散歩で知人に出会いおしゃべりすることがある。度々訪れるボランティアと個人的に親しくなったり、併設の小規模多機能施設「あかとんぼ」に友人がいて、行ったり来たりしながら交流を楽しんでいる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を円滑にしていけるよう席の配置等に工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度退居された方が再入居された実績があり、入院された方や他施設に行かれた方の様子を見に行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅に居るような雰囲気作りに気を付けて本人様の気持ちに寄り添って行くように努めている。	職員は折にふれ入居者とコミュニケーションをとるよう努め、入居者一人ひとりの個人史を傾聴している。聞き取った内容は気付きノートに記入し、ケアマネージャーが個人記録として残している。それぞれの趣味や特技を尊重し、認知症が進んでも残っている力を探って、入居者の生きがいや喜びにつながるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	時代劇の好きな方や歌に好きな方にはテレビ鑑賞をしたりボランティアの方に来て頂いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	雑巾を縫ったりおしぼりをたたんだり等の手伝いをして頂いたりして有する能力が発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会に来た時や病院受診時に同席するなどしてよりよく生活して頂くための課題とケアのあり方を検討している。	ケアマネージャーがアセスメントを行い、家族と本人の意向を聞き出した上で計画を立て、再度家族の意見を聞いて作成している。定例会での利用者状況、申し送り事項なども計画作成の際の参考にしている。こうして立てた介護計画により、排泄の自立が進んだ事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子や気づきや工夫を記入していけるよう職員と共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	野菜の成長を楽しみにしたりゲームや体操などを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	道の駅やさつき展やもみじ狩りなどに利用者様と出掛けて楽しんでいけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に同席させて頂いてかかりつけの医師との連携に努め、入居者様の健康管理や維持に努めている。	かかりつけ医への受診は原則として家族に介助を依頼している。家族が行けない場合は職員が通院介助している。病状によってはケアマネージャーが同席し、病状の説明や処方薬についてかかりつけ医と直接意見交換するなど受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がスタッフにいますので入居者様の異変や変調等に対応して受診につなげるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院時に情報を提供したり退院時に拡大カンファレンスを実施して頂いたり看護サマリーを頂く等関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は困難ですが家族様の思いを共有してできる限りの支援をしていけるよう取り組んでいる。	家族には、入居時に医療的な処置が必要となった場合など終末期の対応は困難であると説明している。可能な限り事業所で見てほしいという家族の希望に応じて、医療的措置が必要になり入院するぎりぎりまで支援をした事例もある。事業所としては、家族の要望に応じて、今後ともできる限りの支援に取り組んでいきたいとしている。	今後も家族から可能な限り施設で見てほしいとの要望が出てくると思われる。家族の要望に応えることが出来るよう、さらに医療連携、職員の教育など体制の整備に努めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会に参加して実践力を付けるよう努めている。また、マニュアルにて定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を定期的に行っている。近隣の方にも今後参加して頂けるような協力体制を築いていけるよう努めて行く。	年に2回、昼間と夜間想定避難訓練を実施している。夜間想定訓練は、日中の時間帯ではあったが、入居者が寝ている状態から起こして避難する訓練を行っている。近隣住民や区長には、非常時の協力を要請している。災害に備えて、建物にはスプリンクラーが設置され、飲料水や食料品なども徐々に蓄えられている。	夜間想定訓練では寝た状態から起こすなど実際に近い形での訓練にしている。今後は、近隣住民に見守りに参加してもらいなどさらに臨場感のある訓練を実施してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人1人を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応していくように努めている。	トイレ誘導の際、本人だけが気づくように言葉かけを配慮したり、トイレの見守りの時も入居者の尊厳を傷つけないようそっと見守っている。職員に対しては、施設長や管理者が接遇の研修を行ったり、現場で指導するなどして、入居者一人ひとりの人格を常に尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを伝えることができるような雰囲気作り心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく1人1人のペースを大切にしていけるよう言葉かけに気を使うよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装などには家族様の協力を頂いて用意して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やおやつなども一緒に作って(団子・しもつかれ・おはぎなど)食事と一緒に食べている。	食事は、昼食のおかず作りは週に5日は近所の人2人に委託し、これ以外の朝食と夕食、昼食のごはんや汁物などは職員が作っている。行事食やおやつは入居者と一緒に職員が作っている。入居者は、梅干しを作ったり、あずきの選別を行ったりしてくれる。寿司やラーメンなどを食べに出たり、出前をとったりするなど、食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表や排泄表に食事量・水分量を細かく記入し毎日チェックして1人1人の体調管理に努めそれに応じた支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い異常の有るかどうかチェックをして歯科受診を家族様にお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツに戻る方もいるのでこれからもできる限りの自立支援を行っている。	定時のトイレ誘導などによりリハビリパンツから布パンツに戻すことができた入居者もいる。夜間にポータブルトイレを使用する入居者もいるが、職員の詰め所に近い部屋に居室を移し、トイレ使用時の物音で確認に行くようにしており、定時誘導などで無理に起こしたりはしないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を配り飲食物の工夫をしたりして便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人に声掛けをして希望に沿った入浴になるよう努めている。	週3回、午後の時間に入浴をしている。入居者の中には、一番風呂が好きな人、毎日入りたい人もいて、本人の希望に添った対応をしている。入浴を嫌がる入居者に対しては、介助する職員を替えたり、時間をずらしたりしており、「薬を塗りますよ」と脱衣室に誘ってそのまま入浴することもある。ゆず湯や菖蒲湯など季節の薬湯も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かな環境づくりに努め安眠できるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の薬の管理には十分な注意をして誤薬がないようにダブルチェックをしている。また、服薬時に入居様の名前と日付、時間を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに行事を行い、毎月喫茶店を行っている。蕎麦打ちをして頂き一人一人の生活歴を活かし気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに初詣や花見・もみじ狩り・りんご狩り・外食・買い物等に出掛けている。	日常的な外出としては、施設の周辺を20～30分の散歩に出かけたり、食材の買い物に職員と一緒にスーパーマーケットに行くこともある。サクラ、ツツジ、アジサイ、紅葉見物や、市内で開催されるサツキ展を見に行くなど季節を感じる外出も多く、さらに外出の際には外食も付きものとなっている。職員のフットワークは軽く、行きたい所があれば可能な限りどこにでも連れ出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員がしているが一緒に買い物に行き希望の物を買うなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが電話でのやり取りは有る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度の調整に気を付けている。お正月・ひな人形・節句・七夕・お盆・十五夜・クリスマスなど季節感がでるような飾り付けをしている。	食堂を兼ねた居間は、南に面した窓や天井の高窓からも陽光が入り室内は明るい。天井が高くキッチンが対面式で開放的なこともあって広さを感じるゆとりある空間となっている。室内には工作ボランティアの指導で作った、季節を感じる作品が飾られ、壁には入居者の笑顔が写っている行事の写真が貼ってある。全面ウッドデッキの中庭があり、入居者は陽光を浴びに自由に出入りすることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を変更したり自室でゆっくり休めるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を飾ったり、御家族の写真などを飾っていただいている。	それぞれの居室には花の名前が付いており、入口には室名の花の写真と職員手作りの折り紙の花が飾られたプレートが取り付けられている。室内は、カーテンと壁が同じ色で、各部屋ごとにイエロー、ピンク、グリーンの三種類がある。入居者は、ベッド、キャビネット、加湿器などの家具を持ちこみ、家族の写真を飾るなどそれぞれ自由に居心地よく過ごせる部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かし常に見守っていくように努めている。安全な環境づくりに心掛け自立した生活が送れるように工夫している。		